

・『時事新聞』 昭和十一年五月

秋の官展第二部 開催に暗雲

二部会分裂の危機

去月（四月）二十六日の委員会で、新文展支持を表明した第二部会の声明に対しては既報の如く、同会会員や一般出品者に多大の不満を抱く者あり。この情勢を憂慮した辻永、太田三郎氏等同会委員連中は一日夕方六時、馬場先門マールで緊急委員会を招集対策を協議した結果、文部省の展覧会規定発表後、総会を開きその決議に基づいて同会の文展参加、不参加を決定することになった。しかし目下委員会としては、極力二部会の分裂を防ぐため文展に出品するや否やは各人の自由とする旨を申し合わせた。

会員のうち、田邊至、金山平三、牧野虎雄の三氏はすでに、絶対に官展に出品せずとの堅い決意を有してをり、このほか三田康、内田巖、猪熊弦一郎氏等や旺玄社、光風会等の一般出品者間にも不出品を叫ぶ者が多く、第二部会も精神的分裂の危機を孕むに至った。

新文展唯一の支持母体たる同会が大多数の不出品者を出すにおいては、事実上今秋の文展第二部（洋画）は開催不可能になるわけである。

二日午前九時から文相官邸で開催される帝展第二部会員の懇談会（二科系四氏は欠席）もこの形勢を何等かの形式において反映するものとみられる。